斉藤　進（さいとう　すすむ）委員

産業能率大学情報マネジメント学部教授

～略歴～

１９４８年生　早稲田大学大学院理工学研究科都市計画専修（修士課程修了）

第四次座間市総合計画審議会会長

～趣味～

水彩画

（平成２６年度実施　外部評価委員）

【総括】

担当課の取り組みの聞き取りとして、今回１５施策を評価させていただきましたが、今後施策展開していくにあたり、各担当課では以下の項目を特に留意していただきたいと考え、今回の総括とします。

【継続事業に関して】

毎年同様の内容で実施している事業に対しては、事業内容の成果を高めるため、常に事業内容の改善に心がけ、担当職員一人ひとりが長期的視点で政策目標の強化・向上を目指すことを望みたい。

【縦割り型事業から横繋ぎ型事業への転換に関して】

日々変化する地域社会の課題と住民ニーズに対応するため、既存事業の枠組み（特に限定された対象者）にこだわらず、例えば、高齢者と子育て世代、そして若者が世代を越えて交流できる横繋ぎ型事業の構築を求めたい。

【緊急対応を要する課題に関して】

公共施設利活用（再整備）方針の検討など、緊急を要する課題に関しては、庁内関係課を結集し、総力を挙げて早期に取り組むといった姿勢を強く求めたい。

【国の制度との関係について】

国の制度改正などに左右される事業については、日頃から市民ニーズを把握し、制度見直しと同時にそれらを適切に反映した事業実施が可能となるよう、常に職員の問題意識を高めておくこと。

【地域問題への取組みに関して】

地域社会において喫緊の課題となりつつある空き家対策などは、関連条例を積極的に活用し、問題確認と同時に早期対応による取り組みを進めること。

【関連課の連携に関して】
災害時の各種支援に関しては、個別に主管課に任せるだけではなく、すべての関係課での相互交流、情報共有、協議徹底を図り、連携体制の実現を常に追求すべきである。

【総合計画の施策展開の模範となる課の取組みに関して】
当該課の取組みは、総合計画の長期目標を的確に捉え、それを実際の施策展開に繋げ、特に現状の問題把握、課題分析、さらに市民協議を踏まえた取り組みが見られるため、その取り組み方・視点について庁内で共有することを望みたい。（施策３１　公共交通）

【市民参画・協働推進に関して】
まちづくり参画を促進し、協働への意識を高めるため、各課が参画・協働の視点で取り組んだ事業成果を公表し、職員が相互に学習できる場を求めたい。

谷田　康司（たにだ　やすじ）委員

(有)司設計工房　代表取締役・一級建築士

座間市市営住宅運営審議会委員・座間市景観審議会委員

～略歴～

１９５１年１１月　座間市生

１９７０年　県立神奈川工業高等学校建築学科卒業

１９７０年　市川建築設計事務所入所

１９８８年　（有）司設計工房代表取締役

～趣味～

軟式野球

読書

（平成２６年度実施　外部評価委員）

先日、相模が丘仲良し小道の完成式典がありました。昔は畑地灌漑用水路として県で整備され、その経緯についてもよく覚えているのですが、長い時間を経てこのような立派な小道になるとは想像していませんでした。まさに協働のまちづくりとして、市長の考えに基づき、地域の方との協働により整備された結果であり、成果として大きなものであると思います。

また、新たに誘致した病院については、当初よりまさかと思いながらお話は耳にしていましたが、すでに着工しているという現実にあり、市長の強いリーダーシップと高い見識、優れた交渉能力、さらに職員のバックアップによる力が総合的に結集して生み出された大きな成果として評価したいと思います。今後、開院した後には、徐々に機能を充実させていくものと聞いていますが、座間市のよりよい医療体制構築のためにも早期に広域的な医療体制の整備が進むことを切望しています。

この２つの事例は、市民の目に見える形として成果の分かる事業です。このほかにも、日々の生活に必要であるものの、市民の目に見えないきめ細かい施策があります。限られた人数、予算の中で推進していくことは大変なことと思いますが、効率化と職員の職能を高めていくことで、有効に施策を進めていただきたいと思います。

また、私的にも気がかりである自治会組織の現状についてですが、私の居住している地区でも自治会に加入していない方がおり、このような方たちの加入を促進するに当たり、行政として広報でのＰＲや、庁舎ロビーでのＰＲなど切れ目なく行うことが必要だと考えます。加入するメリットが分からないとの声を耳にすることがありますが、私は活動する中で、その必要性や楽しさを自らが探すものだと思っています。自治会員が楽しく活動すること、そして自治会に加入したくなるような意識付けなど、活性化に向けて取組むことが大切です。

前回に引き続き外部評価委員として参加し、５２の施策について、私も勉強させていただきましたので、今後も１市民という立場でそれぞれの施策について検証してまいりたいと思いますし、そのためには行政として、さらに職員の職能の研鑽に努めていただくことを願ってやみません。

今、職員に求められているのは、常に市民の声に耳を傾ける謙虚さと、率先垂範する勇気と気概を持ち続けることだと思います。

そして、その真摯な姿勢を私たち市民が目に留め、行政に対する信頼を厚くしたとき「協働のまちづくり」が達成されるものと、私は信じます。

関　雅子（せき　まさこ）委員

㈱関鉄工所　取締役

～略歴～

１９４８年　静岡県生

１９６９年　東京服飾アカデミー服飾学科卒

１９６９年　東昭観光開発（株）入社

１９７３年　㈱関鉄工所　取締役

～趣味～

料理

ゴルフ

（平成２６年度実施　外部評価委員）

今回のヒアリングを通じて私が一番感じましたことは、職員の方々は本当にご努力されております。

その中、私なりに総評させていただきます。

政策の縦割りから横繋ぎへの充実に関しましては、事業数が多い中、一つひとつの事業の繋がりを意識する必要があるのではないかと感じております。同じような施策や事業はまとめることで充実が図られると思います。例えば同種の講演会であれば、カリスマ的な方をお招きして開催すれば、今以上のアピールができると思います。

また、事業の充実面で、是非、世代を越えての交流事業の実施をお願いいたします。

もう一点、自治会活動に関してですが、先日私の加入している自治会で新旧の役員会がありました。少なからず順番なので、役員を引き受け出席されている方もいらっしゃいます。確かに役員として活動する中で、徐々に自治会の役割が分かってくるのですが、早い時期の役員会等に、市の職員の方にもご協力をいただき、自治会との連携や災害時の対応などについてのお話しを直に聞くことで、役員の方が自治会の必要性を認識し、近隣の方にも情報提供ができます。

様々な事業を推進する中で大変とは思いますが、今後も積極的に市民の中に入っていただくことで、より自治会活動が活発になると思います。

自治会は一人ひとりの横の繋がりです。そして行政はより一層市民に寄り添っていただくことも必要であると感じました。

今回、外部評価委員として参加するご縁をいただきまして、感謝いたしております。これからも、よりよい座間市にしていくために、微力ながら協力してまいりたいと思います。